

北海道大学水産科学研究院と北海道奥尻高等学校が 高大連携協定を締結

～高校と大学双方に実りある高大連携への貢献に期待～

【概要】

北海道大学大学院水産科学研究院（函館市/研究院長：木村暢夫）と、北海道奥尻高等学校（奥尻町/校長：清水信彦）は、相互的な教育効果による高校教育・大学教育・大学院教育の活性化及び広く社会に貢献し得る人材の育成を目的として、「高大連携協定」を締結します。

また、本連携協定の調印式を2020年6月23日（火）に行います。

【協定締結に至った経緯】

北海道大学大学院水産科学研究院は、水圏生物資源の持続的な利用を見据え、地球規模での環境保全と生産の調和に関する基礎から応用に至る知識及び研究能力と国際的な視野と行動力を有する人材の育成を目指し、海洋、水産に関わる自然科学から社会科学までの広範な専門分野の教育・研究を行っています。

北海道奥尻高等学校は、地場産業の発展に貢献し、島内外で活躍する「持続可能な社会づくり」の主体者の育成を目指し、地域の産業や課題を教材とした探究活動の指導を行っています。

本研究院及び奥尻高校は、これまで北海道の水産課題に取り組む人材の育成を目指して、水産教育交流を進めてきました。例えば、2018～19年度、奥尻高校では地元の水産資源に関する学生有志の探究活動プログラムを実施し、本学からは修士課程学生を奥尻高校へ派遣し、奥尻高校生への水産科学実験の指導やプレゼンテーション指導という形で交流を進めてきました。一方で、指導にあたった修士課程学生は奥尻高校での活動をまとめ、水産業における課題に取り組む人材育成をテーマに修士学位を取得するに至っており、この教育交流は双方にとって実りある交流となっています。

今後、このような活動を深化し、持続的に行うためには、さらなる連携が必要です。そのため、この度、双方の交流・連携を通じて、北海道奥尻高等学校に所属する高校生の水産学への視野を広げ、学習意欲や進路に対する意識を高めるとともに、北海道大学大学院水産科学院・水産学部にも所属する学生の実践的教育を実現し、相互的な教育効果により高校教育・大学教育・大学院教育の活性化及び広く社会に貢献し得る人材を育成することを目的として、高大連携協定を締結するに至りました。

【連携の内容】

北海道大学大学院水産科学研究院と北海道奥尻高等学校は、以下の事項について連携を進めます。

- ①教職員及び学生・生徒の相互派遣に関すること
- ②教育についての情報交換及び交流に関すること
- ③その他連携事業に関すること

【協定の有効期限】

2020年6月23日～2021年3月31日（その後、1年毎に更新）

調印式

日時	2020年6月23日（火）10時～（受付：9時30分から）
場所	北海道大学大学院水産科学研究院管理研究棟1階研究院長室（函館市港町3-1-1）
出席者	木村暢夫（北海道大学大学院水産科学研究院長）、清水信彦（北海道奥尻高等学校長）
取材	取材を希望される場合は、6月19日（金）までに所属、氏名、連絡先を明記の上、下記申し込み先までメールにてご連絡ください。 〔お申し込み先〕 北海道大学函館キャンパス事務部 研究協力担当 kenkyo@fish.hokudai.ac.jp

お問い合わせ先

北海道大学大学院水産科学研究院 教授 都木靖彰（たかぎやすあき）

T E L 0138-40-5550 メール takagi@fish.hokudai.ac.jp

北海道奥尻高等学校 校長 清水信彦（しみずのぶひこ）

T E L 01397-2-2354 メール n-shimizu@hokkaido-c.ed.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp